

危機管理産業展 2019 での関連シンポジウム

首都直下地震への備え～2020 を見据えて～

10月2日(水)～10月4日(金)に東京ビッグサイト青海展示場にて「危機管理産業展 2019」が開催されました。初日のセミナー会場 C では、平田直プロジェクト総括(防災科研/東京大学地震研究所地震予知研究センター長・教授)をコーディネーターとして、シンポジウム「首都直下地震への備え～2020 を見据えて～」が行われました。いつ起こってもおかしくない首都直下地震に加え、近年激甚化するゲリラ豪雨、台風等の気象災害など、我々を取り巻く危機は増大し多様化しています。一方、我が国の総人口の約 3 割が集中する東京首都圏には、来年のオリンピック・パラリンピックの開催で多数の訪日外国人を迎える(2018年は3,000万人を突破)こととなっており、あらゆる事態を想定した備えや対策が各事業者や個人にも同様に求められています。本シンポジウムでは、行政や企業の職員や社員として、また、一人の個人として、「いま何ができるのか」について包括的な防災対策の議論がなされました。

パネリストとして、東京都 危機管理監の小林 茂氏、(一社)日本医療資源開発促進機構 理事/戸田中央医科グループ横浜柏堤会 災害対策顧問の野口 英一氏、(株)JTB総合研究所 上席研究理事/観光危機管理研究室長の高松 正人氏を迎え、それぞれの分野における取り組み発表に続き、「情報発信」「停電対策」「防災意識の向上」をキーワードとしたパネルディスカッションが繰り広げられました。

定員 500 名の会場はほぼ満席となり、事前に登録された方々以外は立ち見で聴講されるほどの盛況ぶりで、首都圏レジリエンス研究センターでも取り組んでいる、産官学民一体の総合的な事業継続や災害対応、個人の防災行動等の重要性や課題について、来場された方々に広く情報発信することができました。



コーディネーターの平田直プロジェクト総括(防災科研)をはじめとする登壇者紹介の様子



ほぼ満員となったシンポジウム会場の様子 (開始前)